

新潟県

公民館月報 1

平成14年1月号 通巻第587号



表紙 越後平野の守り神
「わたしたちの大河津分水」
(分水町中央公民館)

特集 第35回欧州社会教育事情
視察報告

視 点 田舎の美術館を文化芸術の発信基地に！
ひろば 一言の挨拶から
実践記録 かたり部養成講座
サークル交流 木窯会 (加茂市公民館)
吟詠せいせい会 (中里村公民館)
素顔拜見 石田暁之さん (白根市)
今井朋弘さん (中之島町)

感頭年



歴史に学ぶ公民館

会長 今井昭友

昨秋、長野市で第24回全国公民館研究集会在開催された。

寺脇文部科学省大臣官房審議官は、地方分権の今日、かつては学校教育が上(主)で社会教育が下(従)と言われたこともあったが、今は「融合」の時代である。果たして五十年前に今日の社会と公民館を誰が予想したであろうかと、暗に「寺中構想」の先見性を讃えた。

「公民館」という名前は一時、古くて固いと言われたが、そうではない。ご当地、田中知事の「車座集会」は正しく、官民、「公と民」の好例であると述べた。続く田中知事は、寺脇氏の話に感動し、パブリック(公)とシチズン(民)の一体を目指していることを強調された。

中文字「馬」 今井会長 揮毫



更に、講演で中條高德アサヒビル名誉顧問は「公民活動」に次のような警鐘を鳴らされた。金と物は、時として人間の心を失わせ、社会生活者としての家庭で教えるべき躰や良き伝承をなおざりにしていないか。

また、教科書に無関心で「歴史に学ぶ」大切さを忘れ、公民館人は一人よがりの思い込みで済ませてきたのでは?と怠慢も指摘した。

そこで、改めて「公民」とは、公民館の由来を一緒に考えてみたい。

新潟県公民館誌(昭和36・6発行)の記事と思われるマークにC・P・Hとある(標題の写真)。

これは、「公民館の原点」(昭和60・3全公連発行、朱藤寺春三著)によると「シテイズンズ・パブリックホールCitizens' Public Halls」を訳し「地域のコミュニティ・センター」となって社会教育の中心施設を形成する」と、昭和21・4の文部次官通牒を解説している。

齋藤勉新大教授は、平成・11

7の県公民館大会講演で「大衆を公民(コモン・ペーソン)に変容させる大人の学びの館が公民館である。近來の日本は、プライベートとか個人に比重が片より過ぎ「公民」の意味が理解できなくなってきた。

それは、日本社会が壊れかけてきたともいえる。家族が一番小さい公民であるが、この家族も少しずつ壊れ始めている。

「公民」は「公共性と共同性の両方を理解でき、かつ行動できる人」である。この公民を育むために、公民館には公費である税金で職員を配置、運営している。従って、いろんな人に開かれなければならない」と話された。以下、公民の概念をその時の資料で図示してみる。

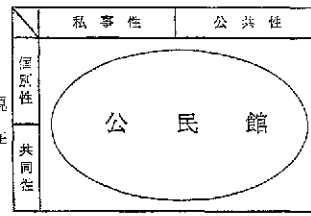
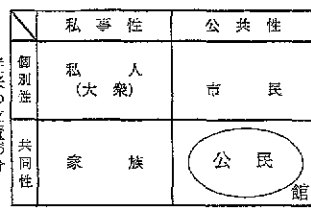
また、「歴史・公民」全教科書を検証する(三浦朱門編著、小学館文庫)の214頁に扶桑社が「公民」を詳述しているのので省略するが一読を乞う。

昨年は、出雲市の教委改革(社会教育部門を市長部局移管)が論議を呼んだ。四月から完全学校週五日制の実施・総合的な学

習が求められている現在、この移管に疑問を感じる。生涯学習は、学校教育と社会教育の両方を包含するといわゆる「学社融合」で、昨春、県内初の地域住民が参画して開校した聖籠町の「統合中学」が注目されている。

最後に、「気がついてたら公民館がなくなって!ということがないように」(奥田中大教授、月刊社会教育H8・6月号)の言葉を年頭にあたりに、今一度、かみしめたい。

元旦



公民館の社会的地位づけ

全国公民館振興市町村長連盟

平成13年度理事・代議員会開催される

平・13・11・30(金)

於東京都 霞山会館で

・新理事に関広一氏(本県会長・小千谷市長)選任。

去る11月30日(金)、東京・霞山会館で平成13年度理事・代議員会が開催された。

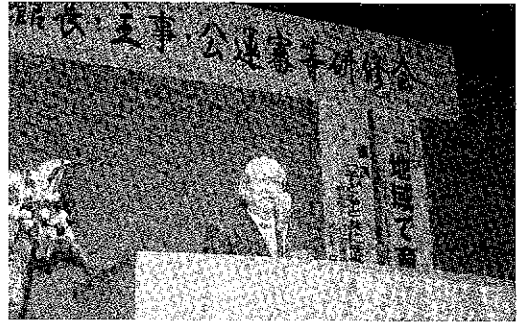
議事は、第1号議案、平成12年度事業報告及び収支決算について、第2号議案、役員を選任

について提案され、新理事に關広一氏(本県会長、小千谷市長)

の他九名が可決・承認された。

を立ちあげる予定とか。

平成13年度中越地区公民館長・主事・公運審等研修会開催



△講演中の反町幸男講師

「地域で育てる青少年」～子どもと共に活動する公民館～をテーマに

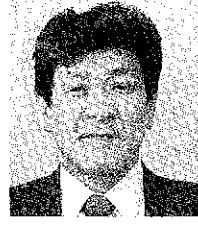
- ・平. 13. 11. 28(水)
- ・寺泊町文化センター「はまなす」で
- ◇オリエンテーション
- ◇講演 題「子どもと共に活動する公民館」
- 講師 新潟県子ども会連絡協議会 副会長 反町幸男 様
- ◇休憩・アトラクション 「塩たき節」
- 寺泊町：浜っ子会 様
- ◇実践発表

- (1) 「青少年事業を通しての子どもと住民とのふれあい」
- ～お話しの世界と平成トムソーヤクラブ～
- 見附市 今町公民館主事 菊池友宏 様
- (2) 「心のふれあいを民話にして求めて」
- ～かたりべを通して育む子どもの心～
- 栃尾市 公民館事業係長 山田栄憲 様
- (3) 「子どもたちに体験とふれあいの場を」
- ～地域ふれあい交流事業を通して～
- 三島町教育委員会 派遣社会教育主事 小林久則 様

視点

今年も小さな田舎の美術館から賛否両論敵しい批判を受けながらも、スポーツ・文化資料館として「八海山」夢展が開かれた。

この大和町立池田記念美術館は、上越新幹線浦和駅から見える豊峰八海山を借影として田圃の中に建てられて



料室をはじめ、野球・相撲・オリンピックの各種記念品など貴重な資料が展示されている。企画展示室は美術館の収蔵品展のほか、一般市民の作品展の会場と

いる。当初建設にあたっては、町民・議会ともある日、田舎の芸術家達から、この美術館を八海山をテーマにした、文化、芸術の発信基地にしたい、との発案がとび出した。言わ

井口 優

さて、この田舎の中小高校の校歌には必ず八海山が歌いこまれ、親しまれている。早速実行委員会が発足して、「八海山・夢展」が開かれた。帰省客へ

一言の挨拶から 頸城村公民館運営審議会委員 上野一美



ある出来事をお聞きして、感動し考えさせられました。

その頃は、引越して一週間位で、外に出ることすら恐い状態だったそうです。その日も、恐々外に出たら、ごく自然に子ども達に挨拶してもらって、この地に受け入れてもらえたような気がして、心があたたかくなったそうです。これも話しておられました。このことは、非常に新鮮で、尚且つ懐かしい故郷にでも訪れたような、心優しくなる素敵な空間を感じたそうです。

ひるば

この話をお聞きして、たった一言の「こんにちは」が、こんなにも人の心を豊かにする力を持っていることを知り、感動しました。

現代社会では、挨拶の出来ない大人や子どもが増えていきます。しかし、社会生活においては、今でも挨拶が基本だと思えます。

世間では、最近の子どもは「グレル」とか、「態度が悪い」だの言われていきます。こころうゆう言葉もよく耳にします。「青少年の犯罪が増えているが、教育現場はどうなっているんだ!!」などです。確かに、犯罪の低年齢化が進み、グレル子、態度の悪い子が増えているようです。

では、教育現場が悪いからなのでしょいか？教育現場とは、どこなのでしょう。単純に学校や教育委員会と云っていいのでしょうか？

先日、心あたたまるお話をお聞きすることができました。頸城に引越してこられたある奥さんが、用事が出来て家の外に出たところ、下校途中の小学生の女の子が、「こんにちは」と挨拶してくれたそうです。

彼女は、旦那さんが転勤族のためたまたま頸城にこられた方

国民に保障する継続教育システム 第35回欧州社会教育事情視察報告



全国公民館連合会主催の「第35回欧州社会教育事情視察団」に内山昭子さん(大島村公民館)と参加してきた。一行は全国の仲間8名。日程は11月8日(水)～21日(水)。訪問国はドイツ、イギリス、フランス、スペインの4か国。視察状況の概要について一部報告します。

十日町市公民館副館長 宇都宮正人

△美しい街・トレド (18日)

■ヨーロッパの生涯教育は？

十日町市では、生涯学習を「学びのまちづくり」とネーミングし、遅まきながら「学びのまちづくり基本計画」の策定作業を進めている(平成13年度完了)。

わが国が生涯学習政策の導入にあたり参考にしたいであろう、ヨーロッパにおける生涯教育や成人教育の政策はどのようなものであろうか、とりわけ生涯学習を「まちづくり」に結びつけている事例はないであろうか、という思いで参加した。

2週間の長旅であったが、各国を代表する都市・フランクフルト、ロンドン、パリ、マドリッドに各3泊ずつということで、疲れることもなく快適な気分で見察することができた。

視察先はドイツ、イギリス、フランス、スペイン各3の10公的機関。生涯教育・成人教育、高齢者教育・福祉、都市再開発、雇用対策の部署におじゃまし、また各国の誇る歴史的文化や建造物、ロマンチックな街を見学し、おおいに刺激を受けた。

■学校教育制度にビックリ

移動のバスの中で、通訳から学校教育制度について聞いた。ドイツは義務教育9年間、すでに週5日制(6時間/日)。

小学4年生までに6回の試験があり、その成績により進路が3段階に決まる。成績上位は大学へ、中位は職業高校へ、下位は義務教育修了後、「職業教育」を受けながら技術・技能を身につけるといふ。

教育方針は「個性を尊重し、創造性豊かな子どもをつくること」。高校では英語、フランス語が必修科目となっており、また教員養成として大学卒業後、適正を判断するために学校現場で2、3年間の養成期間があるとのこと。

一方、イギリスは小学校6年、中学校5年を卒業後、大学入学のために2、3年間、中学校に残り勉強する(シックスホーム)、日本でいう予備校のような機関で勉強する(チュートリアルカレッジ)というシステムがある。義務教育修了後、就職する人が多く、社会人として「生涯教育」を受けるとのこと。

また、フランスは伝統的なエリート教育が支配しており、大学進学や就職に家系が左右し、「生まれ持った血も才能のひとつ」と言われているとのこと。

■国、州で進める継続教育

9日、タルムシユタツト市教育局、成人教育センター・VHS(ドイツ)を視察。

Volkshochschule(直訳すると国民大学)は、労働者の学びの場として開講し、現在は市民教育、成人教育を含む2千の講座に1万4千人が学んでいる。資格は15歳以上、女性7割、男性3割、30～50歳代が多いといふ。

講座は6分類あり、受講者は語学が6割、学校教育制度でふられた「職業教育」の労働・職業が2割を占めている。

19日にはマドリッド州教育省と成人教育センター・ホアキンソロージャ(スペイン)を視察。州法により、ベーシック(文盲者、義務教育未修了者のための初等教育)、テクニカル(職業教育を受けるための基礎教育)、オープン(各センターが地域課題としている教育)に分類し、学習を進めている。

同センターは午前9時～午後10時まで開講、1千200人が受講、ドイツと同じく女性が多く、10～30歳代が多い。センター内を案内されると、若い男女がパソコンや電気配線などの机に真剣に向かっていた。

各国が、生涯教育を生涯にわたる「継続教育」として国や州の法律で位置づけており、継続教育が学校教育制度を補完する役目を果たし、その典型が職業

《社会教育事情視察スナップ》



△レディング市役所 (イギリス、13日)

△AEPA本部 (フランス、15日) 政府認可の成人職業養成協会



△老人文化センター・ウセラ

△成人教育センター・ホアキンソロージャ

教育ではなからうかと思つた。また、移民者等に配慮した母国語、国際競争力を高めるための英語をはじめとした語学教育に力を入れているように感じた。

■元氣な高齢者がいっぱい

19日、老人文化センター・ウセラ(スペイン)を視察。ビリヤードやチェスを楽しんでいる人、バンド演奏に余念のない人、彫塑に打ち込んでいる人など、大勢の若々しい高齢者が学習(ある教室では14年1月から流通となるユーロ通貨の学習をしていた)に、趣味、娯楽に時を過ごしている。また、学習成果を発表する音楽会や文化祭、他センター合同の作品発表会も行っているという。

食堂や美・理容室、健康相談室、トレーニング室などもあり、開館時間は午前9時～午後8時(休館12/25、31)。自力で通える60歳以上の会員施設(無料)、会員は1万6千人、日に2千人が利用。州設置で計31センターあり。スペインも少子高齢化が進んでいるという。

当公民館の「明石学級」が頭に浮かんだ。対象者はウセラと同じ60歳以上。毎週火曜日(金曜日、16コース)のべ5000人余りが通ってくる。限られた施

設や設備、予算ではあるが、ウセラの充実したプログラムを参考とし、取り入れられるものがあるように思われた。

■歴史を遺し、活かす再開発

15日、ラ・ヴィレット科学産業都市(フランス)を視察。パリ市の郊外に位置する旧食肉処理場跡地(1886年から1000年間、1回6千頭処理)を再開発。近代的な科学博物館や映像劇場、パリ高等音楽院や音楽博物館、10のテーマ公園と、負のイメージを一新させた科学と音楽と公園の都市である。敷地は55畝、食肉処理場は建物の外観や石畳等を当時のまま遺し、現在はイベント会場として多目的に使用されている。

「伝統を重んじ、過去を壊すことを嫌う」すべて新しくすると経費がかかる」という考え方によるものとのこと。

13日に視察したレディング・タウンホール(イギリス)も古い1875年建築であり、地域の人々の愛着のひととき強い歴史的建造物を整備事業により修復したものであった。

ドイツで、「古いものを捨て去ることは新しいものも保つことができない」という通訳の話があったが、便利主義や車社会優

先のもとに新しさを求めてきた日本との違いを感じた。

■百聞は一見に如かず

ヨーロッパの生涯教育「継続教育」と、日本の各自治体を取り組んでいる「生涯学習」との違いを感じることができたとともに、歴史や文化を積み重ねてきた風格ある各都市の姿に圧倒された。反面、犬の糞公害、地下鉄やバスの車内の乱雑さといった、アンバランスな生活も見ることができた。また、各国が基盤を持つているだけにユーロの通貨統合により、日本は太刀打ちできなくなるのでは?そんな思いにもなった。

行く先々のデパートやレストランでは、活発に働く若い日本の多くの男女に出会い、元氣をもらい、さらにはフランスとスペインの通訳、ガイド2人が偶然にも長岡市出身と聞いて話が弾んだ。

「百聞は一見に如かず」の貴重な視察の機会を与えてくださった県公民館連合会事務局に対し、内山さんともども、「ありがとうございました」。

◇字都宮副館長より視察の様子をまとめた「旅メモ」が送付されて参りました。お二人とも、大変ご苦勞様でした。(事務局)

実践記録シリーズ(54)

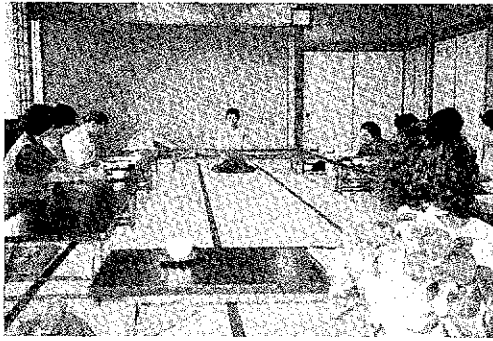
かたり部養成講座

横越町中央公民館

係長 羽田太一

◇はじめに

横越町は、新潟市と隣接して阿賀野川にそった細長い町です。十数年前から新潟市のベッドタウン化が進み、人口が急増しています。このような中で、かつて横越町では、親子へ、子から孫へ口から口へと



昔から伝えられ、語り継がれてきた昔話や伝記、民謡やわらべ唄、ことわざや謎々などがありました。これらを「口承文芸」と呼んでいます。そこには人々が昔から受け継いできた知恵や知識、いうならば人間が生きていく上での大切なものが多く含まれており、無形の文化遺産といえるものです。こうした「口承文芸」が豊かに伝承されていたのですが、時代がくさり、社会の動きや家庭生活の急激な変容をみるようになると、これらもまた、急激に忘れられ、消えて去るようになってしまいました。数年前から町史編さん事業が始まると同時に、昔話など「口承文芸」を後世に受け継ごうとゆう事業も始まり、平成11年3月に横越町史発行と同時に、「横越のむかし語り」として発行しました。この発行を契機にこの本を基にして、昔話を「口承文

芸」として口から口へと、子ども達などに語り継ぎたいとゆう機運が高まる中で、公民館として平成12年度より「かたり部養成講座」として開講しました。

◇ねらい

この語り部養成講座は、参加して昔し語りをうまく語れるようになることが第一課題ですが、その内容や、そこにある教訓、そこから発しているメッセージなどを研究し、より子ども達に「聴く」ことの楽しさ、想像力を高めるなど夢を広げるような語りことばの追求、心豊かな子どもに成長するように、言葉にしか出来ない魂への訴えなどを研究、追求してゆくことです。

◇事業の概要

平成十二年度から公民館の講座として開催しました。月2回第2・4火曜日の午前に2時間、横越のむかし語り(昔話一七五話、伝説、民謡とわらべ唄の三部構成となっている)の基にして参加者が内容の研究、そこに出てくる言葉の研究、語り方の研究などをやりながら、語り方を参加者の中で発表しながら、そして先生の指導を受けてい

ます。現在の参加者は十三人で全員女性です。講師(先生)は、この本の発行に御尽力された教育課長が担当しています。約一年八ヶ月が経過しました。この間何回か、各地域で御活躍されている先生方を訪ねて御指導を受けました。今現在は皆さん上達されて、小学校などで昔話を語ったりしています。これまでの活動状況は別記のとおりです。

◇今後の活動について

この語り部講座を今後とも続けていきたいと思っています。まだ沢山の昔話があり、それぞ

れ研究してゆかなければなりません。話し言葉のすばらしさを追求して、子ども達の想像力や夢が広がるような工夫など課題が沢山あります。

平成十四年度から完全学校週五日制に伴い、横越町は、地域の皆さんと一緒に地域子どもセンターを町内で九ヶ所開設する予定になっています。このセンターで、月一回程度のペースで昔話を語りたいと考えています。また保育園や小学校での発表の依頼もきています。これらの場で、昔話をとおして子ども達の成長の一翼を担えればと一同がんばっています。

平成12年度 かたり部養成講座 (活動状況)

| 開催日 | 講座内容(活動内容) |
|--------|-------------------------------|
| 12.6.6 | 開講 |
| 6.20 | 昔話の基本的な事項 |
| 7.4 | 昔話のきまりごと |
| 7.18 | 猿の生き肝の研究 |
| 8.8 | ウサギとモグラの研究 |
| 8.29 | 一寸法師の研究 |
| 9.12 | 〃 |
| 9.19 | おすぎとおたまの研究 |
| 10.10 | 〃 |
| 10.24 | 発表会 |
| 11.14 | 〃 |
| 11.28 | 〃 |
| 12.12 | 青山和子氏(広神村)の昔し語りをききにゆく(広神村公民館) |
| 12.26 | サバ売りと鬼ばばの研究 |
| 13.1.9 | 十二の干支の研究 |
| 1.23 | 蛇婿、蛇嫁、蛇の恩返しの研究 |
| 2.13 | 〃 |
| 3.27 | 発表会 |

サークル交流

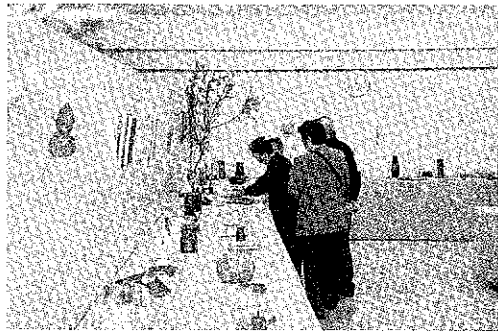
陶芸を通じ仲間作り

加茂市陶芸クラブ木窯会

早いもので加茂市で陶芸クラブが発足して七年が過ぎ、私達のクラブを含め、四つのクラブが活動し、会員総数一〇〇名程となりました。

当クラブは、毎週木曜日夜七時から九時頃まで楽しみながら創作活動しております。出来るだけ会員の皆さんから親しまれる内容で年間事業計画を立て、進めております。

今年から公民館のホームベージュを利用し、初心者体験コー



スを開設しました。また、公民館募集の初心者陶芸教室の指導員にもなり、指導するむずかしさを体験しております。

今年の市展には工芸の部で、市展賞と奨励賞を受賞することができました。これからは陶の奥深さを追求し、芸を研鑽し一歩一歩前進してゆければと願っております。今後の課題は、釉薬と焼き方の研究をさらに進め、プロの作者の指導を受け、

加茂市陶芸クラブの発展に寄与したいと思えます。そして、多くの市民から愛されるクラブになりたいと願っております。

(同会 坂上 和雄 記)

せいせいして

何ともいい気分

吟詠せいせい会

中里村公民館高齢者学級「みのり学園」では、書道・ダンス・生花等のサークル活動の中に、吟詠サークルがあります。

このサークルは十年前に誕生しました。前に、詩吟教室に入っていて四段から八段までの有段者の人、詩吟は全く初めての人、平均年齢七十六歳、二十名ほどのメンバーです。でっかい声で



万座温泉にて「せいせい会」

吟じると気持ちが「せいせい」するので「せいせい会」と呼んでいます。館長の南雲神應がメンバーでもあり、指導も受け持っています。

何にせ仲のいい会で、なじょうに下手でも「うまい、うまい」とほめ合い、ありったけ大きな拍手をおくっています。

嬉しい嬉しい発表の場が年に三回あります。高いステージに上がって、すごく大勢の人前で吟じる気分、何とも辛いです。

性別・年齢・職業には無関係、上下の差別は一切無く、お金は一円もかかりません。娑婆の話に華が咲き、趣味の仲間と飲む酒は、何といっても最高です。

(中里村公民館 南雲 昭治(神應) 記)

白根市中央公民館

主事 石田 暁之 さん

今年4月に税務課から人事異動してきたばかりのルーキーです。

日頃は、将来のわが公民館の「ドン」となるべく一生懸命に勉強しています。

普段は、「静かなること、石田のごとし」と言われるほど物静かな男ですが、仕事に対する情



熱は人一倍で、「熱い魂をもつ男」とも言われています。

素顔 拝見

中之島町教育委員会

主事 今井 朋弘 さん

彼が税務課より教育委員会生涯学習推進課へ異動してきてはや四年、中之島町の社会体育といえは「今井朋弘」というのがすっかり町民の皆さんへ定着している。

各種スポーツ大会・スポーツ教室を体育指導委員二十名との連携の中で、企画運営を持ち前のフットワークでこなしています。

特に本年は、立町(村)百周年を記念して開催された、夏期巡回ラジオ体操会・みんなの体

また、その熱心さからチームソングもできあがり、本人もこの頃かなりご満悦です。

仕事ぶりはいたって忠実に、そして正確に事務をこなし、時には卓越したギャグセンスで「ボソッ」と周りをなごませ、職場には欠かせない人気者になっていきます。

今後の彼の活躍に、職場一同見守っていきたいと思います。ということ、今回はここまでにしとさせていただきます。

(白根市中央公民館 主事 橋本 貴史 記)



操会では、関係機関との連携の中約三千人の参加を得て成功裡に終了することができました。

また、野球においては、高校時代の野球経験を生かして、役場チームのピッチャーとしても活躍しています。どうぞ中之島町の「今井」をお見知りおき下さい。

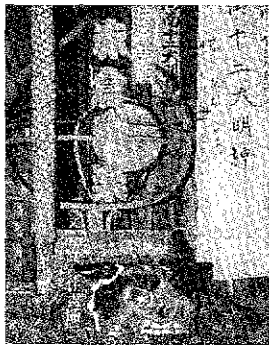
(中之島町生涯学習推進課 村上 昭夫 記)



12月2日(日)の新潟県ユースホ
ステル協会サヨナラパーティ席
上、前日、十日町の六箇・二ツ
屋に泊りこの会へ来られた」と

妻有の里・六箇「四季おりおり」 伝承芸能「赤倉神楽」

のこと。私も十日町の真田地区
に三年赴任していたこともあ
り、ついつい十日町の話で盛り
上がってしまった。
そばの話から地酒の話、魚沼
コシの話、そしてカタクリやウ
グイス、最後は鉢の石仏や赤倉
の神楽の話にまでいきついた。
二ツ屋の魚沼の素材を生かし
たセカンドハウスに十年近く住
いし、休日には近隣の自然、民
俗風物芸能を訪ね歩き、そして



資料根拠を明らかにしてレポ
ト風にまとめたのがこの冊子と
か。早速ご惠贈いただき恐縮し
ている。

惠贈資料紹介

新潟県ユースホステル協会理事

住吉 順二

平成13年度 ネットのつどい

「関プロ公連理事会研修会」 国立女性教育会館で開催 平13・11・29(木)～30(金)

今年で4回目の標記研修会は、昨年引き続き国立
女性教育会館で、11月29日(木)～30日(金)の2日間にわた
り開催された。

第1日目は、研究討議で、①第24回全国公民館研究集
会について、反省は次回提示、記録集は1月末頃刊行予
定と、②第25回全国公民館研究集会(愛媛大会)の司会、
発表についての割り振りが長野県公連から提案、③第
43回関プロ公民館研究大会について(概要案)新潟県公
連から提案。

- ・宿泊料が高過ぎる、再検討を、
- ・宿泊料金にランクをつけられないか、
- ・新潟市内のビジネスホテルや月岡温泉のもっと安い
所に泊まれないか、
- ・交通費もかかり、宿泊料・情報交換会、参加費を合わ
すと2万円近くなる、
- 等々の厳しい意見をいただいた。
- ④全公連創立50周年記念大会について
- ・警備は厳しかったが、無事終了できてよかった。
- ・クロークに荷札を使い、よかった。
- ・アルバイト学生がよく動いた。
- ・賞状の受け渡しと写真撮影がスムーズにいった。
- ・「公民館らしいいい雰囲気を感じられた」との、殿下
のご感想が待従をとおして伝えられた。

第2日目省略
○次回理事会は、2月27日新潟県で開催予定

「月報第2回編集委員会」 開催される。

平13・12・26(水) 新潟市中公で

1. 14年度前半の特集計画作成
 2. 第43回関プロ大会、広報への関わり
- 今年度第2回の編集委員会が、予定を繰り
上げて、12月26日(水)、新潟市中央公民館で開
催された。

まず、今年度4月号から12月号までの月報
掲載内容についての反省・評価から入り、つ
いで平成14年4月号から9月号までの特集
テーマについて、委員それぞれの考えを提示
しながら検討し、年度前半の大よその計画を
策定した。

また、平成14年8月29日(木)・30日(金)開催予
定の関プロ公民館研究大会広報部門への関
わり方について意見交換がなされ、50周年記
念誌同様、下越地区在任の編集委員を中心
に、大会資料及び記録集の編集、作成に積極
的に関わっていくことを確認して閉会した。

あとがき

◇第43回関プロ大会の準備も何
とか順調に流れてきたかと思っ
たのですが、先月末の関プロ理
事会でホテル宿泊料金の問題が
提起され、担当のJTB新潟支
店をはじめ会場ホテルと何回か
話し合いをもっておりますが、
まだ出口が見えない状況となっ
ております。

◇昨年は、第24回全国大会(長野
大会)はじめ、全公連創立50周年
記念大会の参加協力、誠にありが
とうございました。今年の関プロ
大会もご支援・ご協力のほどお
願いします。(鈴木 記)

表紙解説

越後平野の守り神「わた
したちの大河津分水」

写真は、平成12年5月完
成した新「洗堰」の全景で
す。

新潟県の治水の要「大河
津分水」は、わたしたち分
水の町民が誇れる大治水施
設です。
(分水町中央公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951-8053
新潟市川端町2-9・県林業会館内
TEL・FAX (025) 224-6073
発行人 会長 今井 昭 友 夫
編集人 事務局長 鈴木 友 夫
印刷 第一印刷所
〒950-8724
新潟市和合町2-4-18
TEL(025) 285-7161 FAX(025) 282-1776
【定価1部150円 千共・年極1,800円】